

# 立命館大学考古学論集Ⅰ 目次

Ⅱ類木桶の基礎的考察	泉 武	1
浮線紋土器の成立過程	中村 豊	17
香川における縄文晩期から弥生前期遺跡の概観	宮崎哲治	29
朝鮮無文土器から弥生土器へ	家根祥多	39
佐賀平野における弥生文化成立期の土器編年	中野 充	65
畿内第Ⅰ様式古・中段階の再検討	田畑直彦	79
多枝付木製品考—蓋骨の再検討—	浅岡俊夫	101
「小銅鐸」について	北山健一郎	117
永康元年鏡の特徴とその製作背景	原田三壽	133
名古屋市見晴台遺跡環濠年代考	丸山竜平	145
いわゆる「山陰系土器」についての若干の考察		
—古墳時代初期に見られる小型の鼓形器台を中心にして—	中川 寧	159
古墳時代腕輪形石製品の保有状況からの一考察	岩木智絵	167
美濃昼飯大塚古墳の研究Ⅰ	中井正幸	183
墓壙と墳丘の出入口—古墳祭祀の復元と発掘調査—	和田晴吾	195
初期群集墳の形成過程		
—河内長原古墳群の被葬者像をもとめて—	京嶋 覚	213
南勢地域の群集墳—松阪市阪内川流域の特質—	竹内英昭	227
梁 棚 考	松下 彰	237
千葉県富津市所在 西原古墳出土須恵器について	中村 浩	255
横穴式石室出土馬具の基礎研究—馬具の副葬位置を中心に—	山中由紀子	267
百済横穴式石室墳の埋葬方式	吉井秀夫	279
7～8世紀における豪族居宅の動向と律令期遺跡との関係	見須俊介	301
倭京論の再検討	湊 哲夫	311
掘立柱塀と築地塀—藤原宮と平城宮の外周施設をめぐって—	黒崎 直	323
平城京条坊制事情	武田和哉	337
興福寺式軒丸瓦と鬼瓦製作技法の研究	藪中五百樹	353
紀伊国那賀郡衙跡に関する一考察		
—西国分遺跡の発掘調査から—	村田 弘	375
古代墳墓から出土する「鉄板」について	小林義孝	389

史料に見える黒色の土器	梅川光隆	411
平安京の路について	山本雅和	423
南都出土の土師器甕・羽釜の検討	中島和彦	443
鳥取県における土師器皿の展開について	八峠 興	459
吉備系の土師器椀の分布	橋本久和	475
加工円盤についての一試考	織田眞弓	489
「大坂城跡」出土の円形印章について		
－或る吉利支丹大名の遺産－	久米雅雄	495
日本の産銅遺跡－とくに製錬炉遺構－について	神崎 勝	517
伏見人形の窯をめぐる－近世京都の窯業についての予察－	木立雅朗	533
世紀末の遺跡と考古学－21世紀に遺跡を遺すために－	山本一博	555